

# 集団における「幼児の性自認メカニズム」と「男女間の上下関係形成過程」の関係に関する研究

大滝世津子 (東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員)

本報告は、幼稚園3歳児クラスの観察を通して、入園時には、性自認（「ある幼児がオンナノコ／オトコノコと呼びかけられた時に振り向いたこと」と定義）をしていなかった幼児たちが、やがて「男女間の上下関係」（「女」「男」という2つのカテゴリーの間に何らかの優越・上下といった関係が含まれること、と定義）を提示するようになるまでのメカニズムを明らかにすることを目的とした。

従来「性自認」は主に心理学の分野で研究が多くなされ、社会学的研究の対象となつてこなかった。既存研究は①家庭内における大人—子どもという垂直軸を基本としており、子ども同士のピアという水平軸への視点が薄い、②家庭外における両親以外の大人や仲間が幼児の性自認に影響を与える要因となりうることを指摘してはいるが、実際の幼稚園のような日常的・継続的に対人関係が保たれる組織的集団の中で生じた集団力学の影響に焦点を当てたものが少ないという点で、社会学的視点が寄与する余地があると考えた。そのため本報告は、対人関係の垂直軸と水平軸とが相互行為場面における指導や活動を通して、幼稚園の構造的な特徴と交差するところから出てくる集団的現象として性自認を扱おうとした。

以上の点を踏まえ、本報告では、神奈川県Q幼稚園で、3歳児クラス（R組・K組）に属する幼児（女児14名、男児17名）、担任を対象とし、各幼児の性自認時期の測定を試み（男女別の呼びかけに応じるか否かで判断）、幼児の相互行為場面をとらえるための観察を行った。

その結果以下のことが明らかになった。

1. 第一に、幼稚園3歳児クラスの大半の幼児は入園時には性自認をしていなかった。第二に3歳児クラス全体で見ると、数名ずつがほぼ同時に

性自認し、そのかたまりが5～6期に分かれて発生していた。

2. 性自認時期に影響を及ぼしている要因を分析した。そのために、まず各幼児が性自認した時期と「性別」「年齢」「誕生日順」「兄弟姉妹の有無」との関連を分析したが、これらの要因との関連は見られなかった。次に、各幼児が性自認した時期と「各幼児の対人スタンス」との関連を分析したところ、関連が見い出され、幼児はこの結果をもとに12タイプに分類された。

そして、仲間と集団で遊ぶ傾向があり、かつ保育者とコミュニケーションがある子ほど性自認時期が相対的に早く、個人で遊ぶ傾向があり、かつ保育者とコミュニケーションがない子ほど、性自認時期が相対的に遅い、という傾向があるとの結果が出た。

3. 「幼児と保育者の相互行為」から見た性自認のメカニズムは、以下の4つに整理された。すなわち、1)「性別カテゴリーとの同一化」による性自認、2)「性別記号」との同一化による性自認、3) 性自認するための回路がほぼ出来上がっていた状態で行われた「エクササイズ」によって回路がつながったことによる性自認、4) 性自認の「ヒント」となるワードの出現頻度が増加したことによる性自認、であった。

4. 「幼児同士の相互行為」から見た性自認のメカニズムは、以下の2つに整理された。すなわち、1)「同性集団との同一化」による性自認、2)「異性集団との相互補完的同一化」による性自認、であった。

5. 「性自認のゆらぎ」が見られる幼児の事例分析を通して、性自認のゆらぎのメカニズムを分析したところ、以上で明らかにされた性自認メカニズムの他に、「異性集団との同一化」と

いう性自認メカニズムが存在するのではないかと考えた。

6. 以上の知見により、幼稚園3歳児クラスにおいて、どのようなタイプの幼児がいつどのようなメカニズムで「性自認」したのかのモデルを作成した。

7. 幼稚園3歳児クラスにおける相互行為場面にあられた「男女間の上下関係形成過程」を分析した結果、①幼稚園3歳児クラスにはじめに「男女間の上下関係を含まない差異」を持ち込んだのは保育者であった、②幼稚園3歳児クラスではじめに「男女間の上下関係を含む差異」を持ち出したのは幼児であった、③保育者は第1期から第5期までほぼ一貫して「男女間上下関係を含まない差異」を提示していた、等が明らかになった。

8. 6. 7. の知見を統合することにより、幼稚園3歳児クラスにおける「幼児の性自認メカニズム」と、「男女間の上下関係形成過程」の関係を分析した結果、以下のことが明らかになった。まず、幼稚園3歳児クラスに保育者が「男女間の上下関係を含まない差異」を持ち込み、全ての幼児に対して一貫して提示した。こうした保育者との相互行為を通して、入園時から性自認していた幼児（第1期）の他に、「性別カテゴリーとの同一化」あるいは「性別記号との同一化」によって性自認した幼児が現れた（第2期）。これらの幼児が性自認した後も、保育者による「男女間の上下関係を含まない差異」の提示は続けられ、次第に性自認した幼児が増加していった。そして、男女いずれかの同性集団がクラス内に形成されると、第1期に性自認していた幼児が、それ以降に性自認した幼児の助けを得て、他の幼児たちに「男女間の上下関係を含む差異」を提示しはじめた。このとき、それまで「男女間の上下関係を含まない差異」としてしか提示されていなかった性別カテゴリーが、「男女間の上下関係を含む差異」へと変質して用いられていた。このような状況において、それまで性自認していなかった幼児たちは仲間からの「男女間の上下関係を含む差異」の提示と保育者からの「男女間の上下関係を含まない差

異」の提示という二重の圧力にさらされることになった。これを受けて「同性集団との同一化」あるいは「異性集団との相互補完的同一化」によって一斉に性自認していた。

以上のように、本報告は、従来性自認の確立が心理学においては個人の発達過程との関連で語られてきたものが多いのに対し、集団の中での相互行為に焦点を当て、社会学的貢献を模索したことに特徴がある。また本報告は、社会学が今まで問題としてこなかった初期の性自認の時点において既に、社会的関心である権力の問題が介在することを示唆し、性自認と権力を切り離して理解してきた従来の社会学的前提への問題提起をした。これにより、初期の性自認が形成されるまでの社会学的研究が語ってこなかった空白期間と、その後の性自認形成以降の男女のジェンダー・アイデンティティ形成に関する社会学的研究とをつなぐことに貢献しようとした。

#### 【参考文献】

- 大滝世津子,2006「集団における幼児の性自認メカニズムに関する実証的研究——幼稚園における集団経験と幼児の性自認時期との関係——」,『教育社会学研究』,第79集,105-125頁.
- 大滝世津子,2007「幼児の『性自認時期』と『対人スタンス』との関係——幼稚園3歳児クラスの観察から——」,『東京大学教育学部紀要』第46巻,東京大学大学院教育学研究科,131-144頁.

他多数

#### 【付記】

調査にご協力いただいたQ幼稚園の園長先生をはじめとした諸先生方、保護者の皆様、園児の皆様にご心より感謝いたします。

また、本報告の分析の一部には財団法人日本性教育協会から「第16回JASE学術研究補助金」を、財団法人東海ジェンダー研究所から「第9回個人研究助成費」をいただきました。記して感謝いたします。